

項目	観点	教科書名			
		新しい社会 地理(2・東書)	中学社会 地理 地域にまなぶ(17・教出)	社会科 中学生の地理(46・帝国)	中学社会 地理的分野[116・日文]
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地域的認識を養うために、どのように配慮されているか。	・世界の地域別の地図が掲載され、属する国がわかる工夫がされている。また地図帳の索引の仕方を掲載し、地図帳との関連を図ることで国土に関する認識を深められるように配慮されている。	・表紙の次に、「世界の様々な風景」として、普段あまり目にする事のない写真と各国の国旗が掲載されており、「世界の諸地域」の導入として興味をもたせるように工夫されている。	・地球儀の特徴(長所・短所)が本文に記載され、地球儀の短所を補うために、各種世界地図が作成されたという理由が記載されている。また、世界の略図の描き方の説明と実際の作図を通して、地理的認識を養うことができるよう配慮されている。	・世界地図を用いて、各地域の位置が分かりやすいように配慮されている。また、地球儀の扱い方を、写真資料を使って具体的に示すことで、実際の学習活動がイメージしやすいように工夫されている。
	○日本や世界の諸地域の諸事情を位置や空間的な広がりとかかわりでとらえ、地域的特色や地域の課題をとらえさせるために、どのように配慮されているか。	・単元の導入では地図や写真、統計資料を集め、地域を概観できるように工夫している。各地域の概観から学習テーマの追求、まとめまでの流れが明確で、見通しをもった学習が進めやすいように配慮されている。	・見開きのページには、学習すべき課題が掲載され、各地域の学習内容と今後の課題について追究すべきテーマが具体的に記載されており、課題に関して認識が深められるように配慮されている。	・「世界の諸地域」「日本の諸地域」とも、それぞれの地域の特徴を調べるために、冒頭部に、「テーマ」が記載され、調べ学習が容易にできるように工夫されている。また、特徴ある地域の写真も掲載され、地域の位置を地図で確認しながら事前にある程度の特徴をつかむことができるように配慮されている。	・単元末に「自由研究」「地域からのメッセージ」のコラムを掲載し、地域ごとの特徴を追究するテーマが設定され、幅広く地理的認識を深めることができるように配慮されている。
	○大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させるために、どのように配慮されているか。	・時間的経過による変化を読み取る資料が数多く掲載され、地域の変化を考察できるように工夫されている。	・「排他的経済水域」について、各国の領土面積と経済水域の面積との比較を通して、海洋国ほど、経済水域が広く維持するための努力がなされていることが記載されている。また、各国の領土について、課題となっている「領土問題」についても記載されている。	・自然環境学習での面積・人口、雨温図やその他のグラフと比較し、その地域の大まかな特徴を理解できるように配慮されている。また、現在問題となっている環境問題についても写真と併せて掲載されている。	・同じ構成で本文や側注解説がレイアウトされることで、他地域との比較が容易にでき、地域的特色がより明確になるような構成に工夫が見られる。
	○地域調査などの具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察するために、どのように配慮されているか。	・地域的な特色を考察する視点が整理され、地理的事象を多面的・多角的に考察できるよう配慮されている。また、地域調査の手順が細分化して示され、計画的な学習ができるように配慮されている。	・小学校との関連性から始まり、観察、地形図の説明と読図を行い、具体的に「地域調査の手引き」を利用し、個人または班で学習が進められるように配慮されている。	・単元の冒頭部に、各地域の学習すべき「テーマ」を掲載するとともに、特徴ある風景の写真とその位置を地図で把握し、追究しやすい配慮がなされている。また、本文とその内容を補足するための資料を見つけやすいよう、本文に資料ナンバーが記載されている。1時間毎の授業の終末には、「確認しよう」「説明しよう」の課題があり、基礎的内容の確認と思考力・表現力に関わるまとめができるよう配慮されている。	・関連する内容をつなぐ図の活用方法や、各資料を比較するレイアウトにより、地理的事象を多面的・多角的に考察できるよう配慮されている。また、生徒が参考にするであろう活動内容の例を詳しく示すことで、具体的な活動をイメージしやすいように配慮されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○世界と日本の地域構成の基本的な枠組みに関する基本的な知識や球面上の位置関係などをとらえる技能の習得・定着を図るために、どのような工夫が見られるか。	・調査技能は「調査の達人」、地図技能は「地理スキルアップ」と習得する内容を分けて構成しており、技能を系統的に習得するための工夫が見られる。「地理にアクセス」「ティーブレイク」といった学習内容を詳細説明や関連内容の補足するページが充実し、基礎的な知識の習得に配慮されている。	・各章の終わり、世界の諸地域、日本の諸地域の学習終了後に、「学習のまとめと表現」のページが設定されており、知識の定着が図れるように配慮されている。地図技能の向上を図るため、教科書に書き込んだり「ふりかえり」のコーナーから、身に付けた地図技能の確認ができたりする配慮がなされている。	・単元の終末に、見開きのページで白地図を使って基礎的な事項の確認ができたり、地域ごとの特徴を比較しながらまとめたりできるなど、知識・技能の習得を図るための工夫が見られる。	・「学習の確認と活用」で毎時間ごとに学習内容や用語の確認ができ、基本的な知識の定着が図れるように配慮されている。また、地図技能や調査技能を習得するためのコーナーが設けられているなど工夫が見られる。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○地図の読図や作図などの学習を通して思考力や表現力等の育成を図るために、どのような工夫が見られるか。	・複数の統計資料を重ね合わせて考える学習課題が設けられ、発展的な技能を習得させる配慮が見られる。また、単元のまとめに、言語活動を用いて表現する課題が設定され思考力や表現力を育む工夫が見られる。	・「地形図から地域をとらえる」の学習では、等高線から断面図を作成する活動として、教科書に書き込みができるようになっている。単元の最後に「学習のまとめと表現」のページで、山地や河川名の再確認ができる。また、地図の技能の習得として、略図を描く作業的な学習のページが記載されているなど工夫が見られる。	・地図帳の索引の引き方の説明が掲載しており、短時間で地名・地域を探し出すことができる。また、数題の確認問題も掲載してある。授業の最後に、本時の学習内容について自力でまとめることで、主体的な活動を促す工夫が見られる。	・言語活動を「読み取ろう」「考えよう」「まとめよう」「伝えよう」の視点で細かく分け、自分の言葉で表現する場を設定し、幅広い表現力を育成する工夫がされている。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○生徒自らが課題を設定し、多様な調べ方や学び方で学習活動を展開できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ※ 地理的事象の記載 領土(北方領土、竹島、尖閣諸島)については、どのような記載があるか。	・歴史的な領域と関連つけた話題を取り上げ、地理的認識が深められるような工夫がされ、「深めよう」「トライ」による発展的な追求活動が進めやすいように工夫されている。 ＜地理的事象の記載＞ ・北方領土→本文に「かつては多くの日本人が暮らしていた日本固有の領土」という記述がある。掲載資料「日本の領土返還の歴史と北方領土」では地図と年表で解説。特設ページ「地理にアクセス」で地図・写真とともに詳しい説明がある。 ・竹島→本文中に「日本固有の領土」という記述と写真がある。特設ページ「地理にアクセス」で地図・写真とともに詳しい説明がある。 ・尖閣諸島→本文に「固有の領土として実効的な支配を続けている」という記述と写真がある。「広く国際社会から日本の領土として認められています」という領有権を主張する内容でまとめている「地理にアクセス」で地図・写真とともに詳しい説明がある。	・1時間の授業終了後に、「ふりかえる」のコーナーが記載されており、学習した内容について、各個人でノート等にまとめることができるような配慮がなされている。 ＜地理的事象の記載＞ ・「日本の領土問題」について、現在の課題となっている「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」を取り上げている。日本の立場として、不法占拠する国に対し、「抗議」「日本固有の領土」「侵入」という表現をしている。今後の取り組みとして「冷静に向き合い、平和的な解決をめざす」という提案となっている。	・「身近な地域の調査」の単元で、自分たちの地域を観察し、自分の疑問から学習済みの7つの項目に沿ってテーマを設定できるように配慮されている。資料集めについても、文献資料、市区町村から得られる資料が紹介され、自分自身で準備できるような構成の工夫が見られる。 ＜地理的事象の記載＞ ・「領土をめぐる問題」については、「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」の記載と関わっている諸外国の名称がはっきり記載されている。日本の立場として「返還のまとめ」「抗議」という文言が記載されている。	・世界の諸地域では「自由研究」、日本の諸地域では「地域からのメッセージ」で、単元内容に合わせて発展的な追求課題を提示している。また、今日的な課題を取り上げたコラムを設け、興味や関心を深める工夫が見られる。 ＜地理的事象の記載＞ ・領域、領土問題について「日本の領域と排他的経済水域」とした大きめの地図を掲載している。 ・北方領土→本文に「日本固有の領土」「ロシアが不法に占拠」という記述がある。掲載資料「北方領土付近の国境の変化」で国境の変遷がわかりやすく示されている。日本固有の領土である根拠の説明や領土問題解決に向けての取り組みを考えさせる内容がある。 ・竹島→本文に「日本固有の領土」という記述と写真を2枚掲載。本文中「韓国が、一方的に自国の領土であると主張して」韓国による不法占拠に言及。日本固有の領土である根拠の説明や領土問題解決に向けての取り組みを考えさせる内容がある。 ・尖閣諸島→本文に「尖閣諸島には領土問題は存在していません」という記述がある。中国船による領海侵犯の写真を掲載している。日本固有の領土である根拠を時系列で説明し、領土問題解決に向けての取り組みを考えさせる内容がある。

項目	観点	教科書名			
		新しい社会 地理(2・東書)	中学社会 地理 地域にまなぶ(17・教出)	社会科 中学生の地理(46・帝国)	中学社会 地理的分野[116・日文]
3 構成・配列・分量	○教材の構成や分量については、どのような特色があるか。	・世界の諸地域と日本の諸地域の割合がほぼ同じであり、小単元で扱う時間数も各地域で同程度で構成されている。	・「世界の諸地域」では、日本との結びつきが強い地域の内容が多い。「日本の諸地域」では、7地方とも同量の分量で構成されている。	・「世界の諸地域」(6地域)、「日本の諸地域」(7地方)とも、活用を図る学習に重点が置かれており、ほぼ同じ時数で学習する分量・内容で構成されている。	・世界の諸地域に対して、日本の諸地域の学習に対してのページ数が多い。特に日本の領域、領土の内容、自然災害と防災など、新しいニュースを積極的に取り上げているところに特徴がある。
	○本文、資料、学習問題、注釈等の配列や相互の関連については、どのような特色があるか。	・各単元の扉のページに小学校での既習事項があり、他の分野と関連する資料には「分野関連マーク」が付けられるなど、学習内容を関連付ける工夫がされている。側注解説が充実しており、限られたスペースを有効に活用している構成に特色がある。	・本文の内容を視覚的に捉えたり、関連付けたりするための資料が、資料ナンバーとともに記載され、工夫された構成になっている。	・各地域の1時間毎の授業が見開きになっており、大きく掲載された写真や吹き出しから学習課題を作成しやすい。また、重要な「社会科用語」には、側注解説も掲載され、工夫された構成になっている。	・各諸地域の導入見開きページにおいて、地形図や写真・グラフ等の資料をまとめて掲載する構成がされ、地域を概観しやすいものになっている。他の領域や小学校内容との関連をページ下に表記し、既習事項や他領域と関連づけて工夫された構成になっている。
4 表記・表現	○用語や記号等の表記や本文、地図、図表、写真、統計資料等の表現については、どのような工夫が見られるか。	・掲載されている写真は大きく、内容をイメージしやすいものである。巻末「統計・資料」を大きめの文字で記述していたり、グラフ類の背景色などを統一したり、見やすい工夫がなされている。	・わかりやすい表現で、敬体で表記されている。また、見開きのページに導入のための資料(写真、説明、吹き出し)があり、学習課題が作りやすい構成となっている。	・本文の説明の補足として、本文に資料ナンバーを記載し、資料と比較しながら学習を進められる。写真も太字「社会科用語」に合わせたもので、イメージをもつことができるような工夫が見られる。イラストも生徒が気づくことができるよう「疑問」や「補足的説明」の役割を果たしている。	・主要地図や雨温図の大きさや配置を統一し、比較しやすいようにしている。また、グラフ類は色づかいを控えめにして内容を強調する作りになっており、内容の読み取りが容易になるよう工夫されている。統計地図は大きく、巻末の統計資料は鮮やかな配色に工夫されている。
5 体裁・使用上の便宜	○表紙や紙質等の体裁、目次や索引等、使用上の便宜については、どのように配慮されているか。	・AB版の大きさと資料など余裕をもって掲載されている。目次に続いて、教科書中で使われているマークを解説したり、系統的な学習内容をテーマ別にまとめたりすることで、生徒が教科書を利用して主体的に学習できる配慮がなされている。	・目次が見開きにしてあり、ページ毎に「世界の諸地域」と「日本の諸地域」に分けて記載されている。索引の国名は色付きで使いやすく配慮されている。	・見開きの目次は、「世界の諸地域」と「日本の諸地域」を左右に分け、使いやすくなっている。目次に続き、次のページには「学習の仕方」が説明されており、「授業の始め」、「授業のあとに」、「ふりかえり」と、基礎・基本、思考力、表現力を身に付けられるよう配慮されている。	・AB版の大きさと資料など余裕をもって掲載されている。「教科書の構成と使い方」を掲載し、ページ構成について詳しく解説している。索引は本文中の太字を赤字でまとめ、学習をする際に調べやすい配慮がされている。